

SVA:絵本を通して 「心の平和構築」

皆さんは難民の子どもたちが描く絵をご覧になったことがありますか?お母さんが血を流していたり、戦車が村を襲っていたり、悲しい絵を描く子どもが多いのが現実です。

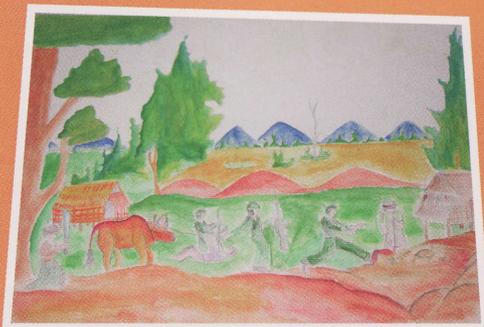
SVAは、2000年以降UNHCRのパートナーとして、難民キャンプの図書館を拠点に、タイのミャンマー難民、特に子どもの心を見守ってきました。このプロジェクトでは、3つの難民キャンプの8万4千人を対象に、読書を通じた教育支援、カレン民話・歴史の出版、紙芝居や人形劇などの文化継承を活性化することで、難民の「心の平和構築」を推進しています。SVAの図書館が難民の憩いの場になり、子どもたちが可愛らしい動物や植物の絵を描くようになったことがとても嬉しく感じられます。

詳細は www.sva.or.jp

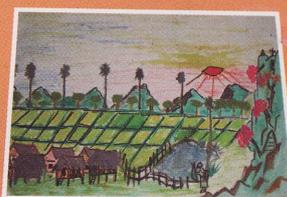


©筆者提供

絵本に見入るカレン難民の子どもたち



カレン難民の子どもたちが描いた絵



平和構築パイロット支援事業は、過去の南部スーダン人道支援、イラク難民支援に引き続き、UNHCRとのコラボレーションによって相乗的なインパクトがもたらされています。

遠景近景

心の手をつなごう

2004年1月、タイ西部のミャンマー国境近くにあるタムヒン難民キャンプを訪れました。

学校で熱心に勉強する子どもたち、子育てに励む女性、そして職業訓練に意欲的に参加する人々。祖国を逃れてなお、たくましい人々の姿を目の当たりにしました。

彼らはいつ何時キャンプを去らなければいけないかわかりません。それでも静かな瞳の奥には、「生きることを諦めない強さ」がありました。

その眼差しを見た時、自由で恵まれた環境に甘え、いろんなことを先送りにして諦めていた自分に気付きました。

難民とのふれあい、難民支援を通じて、一日一日がより愛おしく大切なものだと感じるようになりました。

難民と私。生まれた世界は違えど同じ人間……未来を信じて懸命に生きる人の心に、国境はありません。

私はたくさんさんの心の手をつなげるために、力を注いでいきたい。



©Sanae Numata

宮崎京
ファッションモデル。2003年ミス・ユニバース世界5位。日本UNHCR協会広報委員として世界難民の日等のイベントで活躍。

